

# ArteKodomotoKi



社会福祉法人 種の会 アルテ子どもと木幼保園  
〒164-0001 中野区中野 1-59-5  
Tel 03-3365-0602  
ホームページ URL <http://www.tanenokai.jp/>

11  
2021.  
えんだより



## お知らせ

- ・自転車置き場での立ち話は、近隣住民のご迷惑になりますのでお控えください。
- ・運動会前日の早お迎えのご協力ありがとうございました。12月4日アート展の前日12月5日（金）も準備に時間がかかる予定です。早お迎えが可能なご家庭にはご協力をお願い致します。アート展詳細は後日お知らせ致します。
- ・保育参観・個人面談についてのお知らせを先日配布しました。  
今年度は乳児が11月～1月、幼児は11月～2月の期間を設けました。  
日程を調整後に決定日をお伝えいたします。よろしくお願い致します。
- ・休園日：12月29日～1月3日  
年末保育をご希望の方は、利用可能施設等のご案内を掲示板に貼りましたのでご確認ください。

November 11 2021						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2 音楽あそび	3 文化の日	4 運動あそび 0歳児健診	5 秋の遠足 (3・4・5歳児)	6
7	8	9 音楽あそび 発育測定	10	11 運動あそび 歯科健診	12	13
14	15	16 音楽あそび	17	18 運動あそび 0歳児健診	19	20
21	22	23 勤労感謝の日	24	25 運動あそび 避難訓練	26 誕生会	27
28	29 音楽あそび	30		運動あそび		

# アートと乳幼児教育

園長 山田寿江



運動会では、心からのエールをありがとうございました。子ども達の成長を分かち合うことができ、大きな喜びとなりました。

日々の保育で子ども達は、自分を表現すること、ケンカすること、息を合わせることなど多くの経験を繰り返して様々な友だちとの関係を生み出してきました。5歳児のパラバルーンは、日頃の対話から発見し進化した演技でした。

日本の共同的問題解決能力は世界のトップクラスだそうです。幼児期から友だちと一緒にことをなしていく関係性が大いに意識され力となっているからなのでしょう。

12月のアート展では、子ども達の興味や関心を形にした造形表現とそのプロセスをたどった記録、ドキュメンテーションを展示します。何をつくるか、どうつくるか、テーマと方法の自由は幼児教育にとって重要です。同じ子どもでも今日と明日では違います。子ども達のユニークな発想や小さな気づき、五感で受ける刺激、モノとの出会い、その物語<sup>ストーリー</sup>をたっぷりとお楽しみください。



## デジタル時代の乳幼児教育

さて、デジタル時代の教育はどうなっていくのでしょうか。人工知能の急速な進化に、「今、学校で教えていることは通用しなくなるのでは？」

「AIに職業を奪われるのでは？」という不安の声もあります。今後は、半数近くの仕事が自動化される可能性があるそうですが、予想外のことに対応する力、人とのコミュニケーションが必要な仕事は残るようです。想定外のことも前向きに受け止め、変化や変容に主体的に関わる力を育む教育が求められています。知識を詰め込む丸暗記型の教育や教師の言

う通りにするだけの教育から脱却し、答えのないことを「あーでもない、こーでもない」と対話する、そのプロセスが新たな価値を生み出す力となります。まさに幼児期の友だちとの関係から育まれていきます。

小学校のプログラミング教育は、「プログラミング的思考」を養う目的で、情報技術を上手く活用し、よりよい社会を築いていこうとする態度を育むのだそうです。どのような組合せが必要か、どのように組合せたら良いかを理論的に考えていくそうで、アナログで積み木を一個ずつ重ねる幼児期の経験が、仮想空間でのデジタル積み木を重ねていくことへつながるのだとか・・・。

## やったことのないことにチャレンジ

日本の教育では、間違ふことを恐れる傾向が強いといひます。乳幼児期は やりたいことを夢中でやり、安心して失敗できる機会が保障されています。自分で決めなければ、自分の失敗にはなりません。自己決定できる自由と 上手いかなくても自分で乗り越えるチャンスを奪わないことは大切です。新しいことに取組むには勇気がいりますが、チャレンジの経験は新しい時代に必要な力を得るものとなると考えています。



屋上のオリーブとイモムシ

4歳児のRくんは、運動会が終わって帰宅すると直ぐに制作を始めました。夢中になって作ったものは、担任のゆきこ先生にプレゼントするためのメダルでした。今年の運動会は5歳ナノ組が金メダルをもらい、4歳ナノ組はアルテオリジナルのお煎餅メダルをもらいました。メダル授与の時に5歳担任のまりこ先生が園長先生から金メダルをかけてもらっているのをRくんは見えていました。だから帰宅するとメダルをもらっていないゆきこ先生のために慌ててメダルを作ったようです。月曜日にRくんからメダルをもらったゆきこ先生の目には涙が溢れました。

Rくんの他者を思いやる気持ちはどのように育ったのでしょうか。Rくん自身がたくさんの愛情を受け、その愛情を感じていなければ他者を思いやることはできません。字が書けるようになったり、数字が読めたり、鉄棒や水泳が出来るといったことは、教えてもらえば出来るようになりますが“他者を思いやる心”は大人が教えることで育つものではありません。相手を思いやり自ら行動する力は、ご家族や周りの方々、そして担任の愛情で育まれていることでしょう。Rくんの素敵なプレゼントのエピソードを聞いて、私もあたたかな気持ちに満たされました。



臨床心理士の先生に、スマホやタブレットが子どもの脳に与える影響について聞きました。画面から放たれるブルーライトは脳の感情と記憶をつかさどる辺縁系に影響を与える。ブルーライトを多くあびると、感情の起伏が激しくなったり人の気持ちがわからなくなったり、コミュニケーションが上手くとれなくなる。特に睡眠前の使用は悪い影響を与えるとのことでした。学習にもATが使用されるなど便利な時代ではありますが、幼い子どもの使用時間に関しては子どもと話し合い、ルールを守って使用するなどの注意が必要ですね。

今月の表紙の絵は4歳児のHさんの作品です。展示してあった貝殻や小石を絵の中に取り込んだ素敵な作品です。「先生見て！これはね、海の中にいる人魚なのよ。体に貝がたくさんついていてとっても可愛い子なのよ。海にはねイカのお友達もいるのよ。」と想像した世界を話しながら描くことを楽しんでいました。

主任 黒木



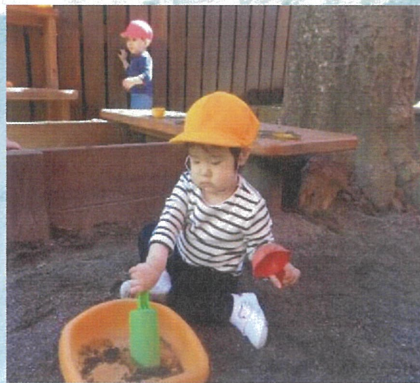
# Atto (★)

さわやかな季節になりました。さあ、お外で遊びましょう！

涼しくなり秋の訪れを感じる今日この頃、0歳児クラスの子ども達にとっても、戸外で過ごしやすい季節になりました。入園時は、ハイハイしていた子ども達は歩行が安定し、走るようになりました。お座りが安定しなかった子ども達も、ハイハイで自由に動き回るようになりました。たくさん動けるようになったので、園庭や散歩に出かける機会も増え、戸外で楽しい時間を過ごしている子ども達の姿が多く見られるようになりました。



園庭で遊んでいた Mくんは、保育者が「ほら、こんなにきれいな葉っぱと可愛いどんぐりがあるよ。」と、テラスに置くと、すぐに両手に1枚ずつ葉っぱを掴んで、嬉しそうにテラスを歩き回っていました。Yちゃんは、どんぐりを大事そうに手のひらにのせて、小さな指で優しくなでていました。



秋は砂場遊びも楽しいよ！

涼しい季節になると、園庭の砂場遊びも楽しくなってきます。Cちゃんは、シャベルを両手に持って、一生懸命砂をすくっていました。保育者が「お部屋に入りましょう。」と声をかけても夢中で気付かないようです。シャベルを使って砂をすくう遊びに集中していました。保育者が砂を詰めたコップを板の上で逆さにして出して、アイスクリームを作ってみせると、Aくんは手を叩いて喜びました。そして、自分でも砂をシャベルですくって、コップに砂を詰めようとしていました。

これから、ますます秋は深まっていきます。少し寒くなりますが、戸外に出て秋のさわやかな空気や、落ち葉や木の実などの秋の自然にたくさん触れたいと思います。



# At #1

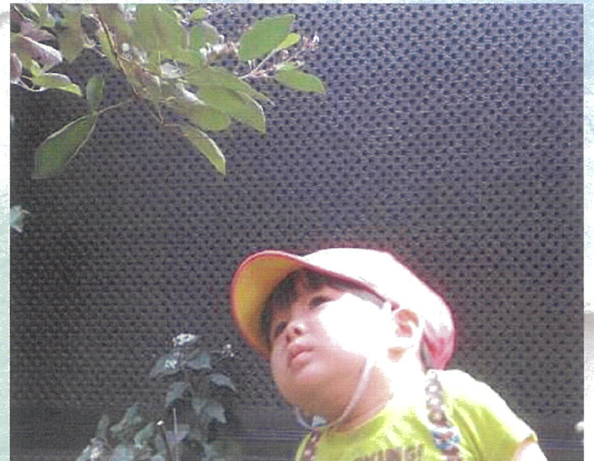
## 砂場で

これまでは保育者に作って欲しいものをリクエストすることが多かった子ども達ですが、この頃は自分で砂をカップに入れ、どんぐりや落葉など秋の自然物をトッピングするなどして見立て遊びが盛んになってきました。「いただきます」をして食べる真似をしたり、お友達や保育者に「どうぞ」とふるまったり、「おまたせしました」とお店屋さんごっこのようにして、やりとりを楽しむ姿も見られます。



## ぶどう狩り？

園庭の植物が紫色の小さな丸い実をつけているのに気づいた Hくん。「ぶどう、ぶどう」と言いながら背伸びをしたり保育者に枝を下げてもらったりして“ぶどう”を次々ともいでいきました。「ぶどう」と言いながらも口にすることはありません。似ているけれど“ぶどう”ではないことを理解して見だしている姿に成長を感じます。“ぶどう”は、あつという間になくなって、高いところにある実をじっと見つめています。「高いから取れないね」と保育者が言うと「センセイ、おんぶして！」と一言。おんぶしてもらえば手が届くと知恵を働かせたようです。抱っこで少しだけもいで「また今度、実ができれば取ろうね」と言うと納得した様子で落とした木の実を拾い集めていました。



## ボクの長いペン

散歩で訪れた公園に、たくさんの枝や葉っぱが落ちていました。両手いっぱい集めると「センセイ、こっち持って」と枝の両端を一緒に持ち電車に見立てて出発進行。「〇〇ちゃん、乗って」とお友達も誘ってごっこ遊びに発展。このように、お友達と一緒に遊ぶことを楽しむ姿も多く見られるようになっていきます。

hくんは、長い枝を見つけると「長いペン」と言いながら大事そうに持って遊んでいました。翌日、同じ公園に行くと「センセイ、長いペンは？」と探し始めました。いくつか枝を拾っては渡してみましたが、「ちがう、これじゃない！」とおかんむり。結局その日はお眼鏡にかなう枝が見つからず表情を曇らせていました。そして、次にまた同じ公園に行っても“長いペン”探しは続いており、ようやく納得のいく枝を見つけると「センセイ、あったよ、長いペン」と満足そうな表情で枝を見せてくれました。hくんは公園にいる間ずっとお気に入りの“長いペン”を手に排水溝をつついたり、地面を滑らせたりして楽しそうでした。確かにしっかりした枝ぶりではありましたが、ダメだしをされた枝と何がそんなに違うのか全くわかりません。でも、hくんにとっては決定的に違う何かがあったはず。幼い人たちだからこそ、じっくり見つめ想像し物語を紡いでいるのでしょう。大人になり年を取るにつれ、気にも留めなくなることのなんと多いことかと気づかされたと同時に、そんな、ひとり一人の世界を大切に寄り添っていきたいと改めて思いました。



# PiCo 2

ぼく・わたしたちもやってみたい！

運動会を終えた次の週、ママごとで遊ぶ子どもたちはひらめきをしました。“エプロンの紐ってゴールテープに似てる！”運動会でのかけっこでゴールテープを切ったことが記憶に刻まれていたようです。Eさん「よーいどんみたいじゃない!？」Aくん「僕もやってみる！」とゴールテープを持つ保育者の真似に夢中になりました。紐を持つのが楽しい！体が紐にひっかかるのが楽しい！と子どもたちは思い思いに楽しめます。保育者が「お友達がゴールしたときは紐を放してね。」と伝えると、Aさんはお友達がゴールするナイスなタイミングで紐を放していました。お友達の動きをよく見ているな～と感心します。恥ずかしがり屋のSくんは「Aちゃん、Hちゃん、よーいどん。」とスタートの声掛けをし、遊びに参加していました。みんなにとっての運動会は1つの行事として完結したのではなく、日々の遊びの中に溶け込んでいることがとてもよく分かりました。



## 経験から模倣、創造する

公園には枝や枯れ葉や木の実で地面が色づき、子どもたちは自然物を拾い上げて色や感触を確かめたり、仮説を立てて友達と考えをめぐらせたりして親しんでいます。ある日、枝を拾ったFさんに「何を拾ったの？」と聞くと、「にんじん!」「とんとんするの!」と答えます。人参に見立てた枝を平らなところへ置き、包丁を持つ手つきで「とんとんとん…」とおままごとの真似を始めました。近頃、『おやさいとんとん』という絵本が好きで、野菜をこまかく切るシーンを見てよく真似をしていたことが関係していると感じました。大人にとっては、ただの自然物ですが、子どもにとっては、いろんなものに変身する魔法の物なのかもしれません。子どもたちは、記憶や経験から様々なものに当てはめて遊びにつなげます。子どもたちの創造するの世界をみると、まるでに虹色の目を持っているかのようにキラキラと目を輝かせて遊んでいます。

# Nano 3

## ～いよいよ、運動会当日！！～

初めて行く大きな体育館で、沢山の人の目にさらされる運動会。みんななどれだけドキドキしたことでしょう。そんな中、Sさんは不安と緊張でいっぱい、泣きながら来ました。その心を想うと、会場にただただもう十分頑張っているのです。運動会が始まってからも保育者の側にびたりとくっついていました。

最初は、かけっこ。まだ、しくしくとしながらもやりたくない気持ちを伝えてくれ、もちろんその気持ちを尊重しました。次は、お友達との協技。待機の間保育者は、「次は、一人じゃなくてお友達と一緒にだからね。」と伝え、側にはいつも仲良しのKさん。するとふたりは手を繋いで待っていました。そして、始まった協技にSさんは自ら参加。しかも、とても落ち着いてしっかりルールを把握して、数字が逆になっているところも難なく戻して堂々とゴール！その姿に、『もう、大丈夫』と保育者は、最後の演技ミニパラバルーンを見守ります。期待通り、お友達と一緒に元気に笑顔で演じるSさんの姿がありました。

“不安や葛藤を感じ、それらを受け止めてもらい、友達の存在に安心し自らの意思で動き、さらに自信を持って挑み達成感を知る。” Sさんは、運動会という短時間の中で、こんなにも頼もしい心の成長をしっかりと見せてくれました。

※協技（競うのではなく友達と協力しておこなうこと）



## ～かわいいおしゃべり～

秋晴れの気持ちの良いお天気の中、お散歩に行きました。落ち葉をかき集めていたEくん「そうだ！お山にしよう」と思いついたようです。すると、葉っぱの中からテントウムシが出てきました。Eくんは必死に指でつまんで捕まえようとしては逃げられの繰り返し。そんな様子を側で見ていたHくん「テントウムシさん、このお家（Eくんの作っていたお山）に入ったんじゃない？」と。Eくん「テントウムシさん、この中でテレビみてるんだー！」「三階にいるんだー！」「さみい～って」、葉っぱのご飯たべてるんだ～！」「テントウムシさんは、大きくなったらあおむしさんになるんだ～！」とEくんのおしゃべりは続き……。「へ～。そうなんだあ！」とひたすら話を聞いているHくん。聞いてくれる存在がいるだけでEくんの想像はこんなにも広がりました。二人のほのほのとした空気が金木犀の香りと共に漂っていました。





# Nano 4

## ～すべてがたからもの～

運動会前から、公園に行っては色々なものを発見している子どもたち。木の実や、落ち葉、花びらや小枝、小石。どんどんコレクションが集まっていきます。“石”ひとつとっても子どもたちにとってはごはんにもなるし、原石にも、化石にもなります。毎回子どもたちは目をキラキラさせながら“たからもの探し”に励んでいます。そのひとつを何かに見立てて、どんどん想像を膨らませて遊びが進んでいきます。

「ティラノサウルスの頭の骨があったよ」と、げんこつほどの大きさの石を持ってきたAくん。土がついていたので洗い流し、歯ブラシを使って細かい汚れを落とすと中から石の色が出てきました。雑巾で水分をふき取ったあとAくんは大事そうに抱え、嬉しそうに眺めていました。



Aくんのなかではその“石”はティラノサウルスの頭骨で、大切な宝物になりました。それがきっかけとなり、お友だちも参加し、今でも化石探しを日々楽しんでいます。



## ～食欲の秋～

秋は美味しいものがたくさん！給食には季節のものを取り入れ、彩り豊かなおかずが並んでいます。「これなあに？」食べたことないものもあり、不思議そうにのぞき込む子どもたち。最近では何の料理か、話をクラスでするようになりました。給食にカレーライスが出たとき「とうきょうのりょうり？」「違うよ、ちゅうごくじゃない？」と話す子どもたち。「インドだよ」と知っているお友だちが答えてくれると「知ってる！」「カレーはインドなんだね！」と。そこである日、インド料理の日はインドの音楽を、日本の料理の時は日本の音楽を流すと「素敵な音楽だね」「なんか聞いたことあるよ」と音楽にも興味を持ち、今では毎日かかっている音楽を聴いては「今日の音楽はなんだろう？」「なにごはんなんだろうね」と何気なく食べている毎日の給食にも興味関心を持ち、子どもたち同士の会話が広がります。

## ～わっと たいむ いず いった？～

クリス先生と一緒に英語の手遊び歌や、英語のゲームを楽しんでいます。カレンダーを見て一緒に数字を数えたり、色々な日常の単語や会話を話したりしています。英語のゲームも教えてもらいました。クリス先生が“ウォルフ役”（狼）になり、みんなで「What time is it?」と聞きます。「〇〇時！」と言われた時間分の数字を歩き、ウォルフに近づいていきます。何度も繰り返していきます。ウォルフが「Lunch time!!」と言うと、みんなは食べられないように自分の家に急いで逃げる、というだるまさんころんだのようなものです。初めてやった日はあまりにもウォルフが怖かったのか「怖い～！」とやめる子どももいましたが、広い公園で仲の良い友だちが楽しんでいる姿をみて、少しずつ参加するようになりました。今では「英語のおおかみゲームやりたい！」とリクエストがでるほどです。



# Nano 5

## 何食べるのかな？

城山公園の木に子ども達が集まっていた。虫でも見つけたのかな？いえいえ、巨大なカエルです。何事かと見に来た友だちや保育者たちがカエルを見ては、「キャ～」と声をあげていました。Hちゃんの前でカエルが虫をペロリと食べました。「今、虫を食べたよ！」Hちゃんの声聞いていた友だちが次々にいろいろな虫を捕まえてきました。「アリは食べるかな？」「ダンゴムシは？」「蛾がいたよ！」捕まえてきた虫がカエルの顔の前にそっと置かれますが、カエルは見向きもしません。「動かない虫は食べないよ。」Rくんが言うと、子ども達は活きの良い虫を探し始めました。ずっと動かずにいたカエルがゆっくりと動き始めました。体全体を見せてくれたので足の指まで観察できます。カエルと目が合うくらいの距離で楽しい観察が続きました。またカエルに会えるといいですね！



## さなかのウロコ！？

屋上園庭で遊んでいた時のことです。

「ツツツの雲があるよ。」

「あれはウロコ雲だよ。」

「ウロコって、魚のウロコのことだよ。」

雲の名前を言っている子ども達が嬉しそうに話していました。秋の空がとても綺麗です！



## どっちが大きい？

月と地球のどっちが大きいかが話題になった日に、十五夜で作った張り子の月を使って地球の大きさを考えてみました。月の方が大きいと思っていた友だちに図鑑の絵を見せて説明する姿や、宇宙の星について自分たちで調べる姿もあります。「地球はこれくらいかな？」張り子の月の大きさを元に地球を作ってみることになりました。どんな地球ができるのか楽しみです！



## ピアノ楽しい～♪

自由遊びの時間にピアノを弾いています。楽譜を見てゆったりと弾いていた子ども達が、「先生、弾けるようになったよ！」と嬉しそうに報告してくれます。通りがかった先生たちが足を止めて聴いてくれるのも嬉しいようです。

とんぼのめがねは みずいろめがね あおいおそらを とんだから とんだから

昭和24年 作詞：額賀 誠志 作曲：平井 康三郎

# Atelier



「秋の光の不思議を楽しもう」

「とんぼのめがね」は9月の歌として子ども達と一緒に歌っていました。「とんぼのめがね」の歌詞からは、秋の澄んだ空を優雅に飛ぶとんぼの姿を連想します。でも何となく、今年はトンボの姿をあまり見かけない気がします…

4歳ナノ組の子ども達と、トンボの目について調べてみました。拡大すると…たくさんの粒々が集まっているように見えます。

「トンボの目はね、小さな目が一万個も集まってできているんだ」とYくんが教えてくれました。けれどどんな感じに見えるかはなかなか想像できません。そこで多面レンズの万華鏡を覗いてみると「キラキラしてる!」「顔がいっぱい見える」「めっちゃいっぱい見える!100人も、すご〜い」と驚きの声。

そんな経験をしてから、ペットボトルを使い「とんぼのめがね」作りに挑戦です。赤や青、黄色のセロファンやキラキラしたチョコレートの包み紙、他にも文字が印刷された紙など色々な素材から気になるものを選び、ノリで貼っては覗きまた貼っては覗き。「とんぼのめがね」を通して色や光の変化を楽しみます。



「なにこれ!なんかいい感じなんだけど!」  
「黄色と青のを重ねると、緑に見えるんだよ」  
「見て見て!!なんか今までのペットボトルのやつと違う感じ」

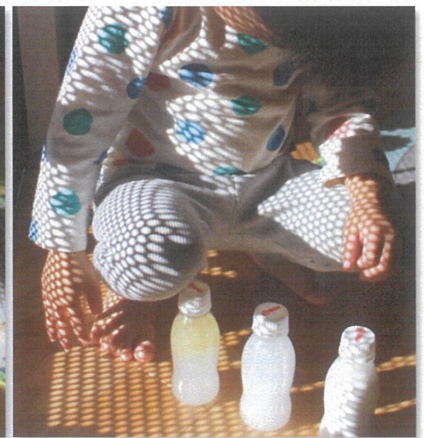
空も高くなりました。室内だけでなく屋上に出て、秋の大空と光の輝きを、まさにトンボになったつもりで眺めてみようと思います。

秋になると南中高度も下がるため、室内に入る光も変わってきます。先日2歳ピコ組のTくんが、朝日の差し込む窓の近くで遊んでいると…??

不思議な光と影に出会いました。そばにいた私も驚き「ポツポツだねえ」と二人で眺めました。光と影の正体は、網戸についているパンチングの模様です。

しかしTくんは、もっ

とびっくりするのを見つけました。「こっちにはポツポツあるけど、こっちにはない」白の色水が入った小さなペットボトルを見ると、3本のうち1本にしかポツポツの影が映っていないのです。しばらくそれを見つめていたTくん。きっといつか、その理由を見つけてくれるでしょう。



(文責：一然)

# Lunch & Snack time

## 食育だより

### 冬の足音が聞こえ始めた11月

寒い日も「行ってきます！」と元気に公園に出発する子ども達。たっぷり外遊びをすると自然におながが空いて食欲が増すようです。給食の「いただきます！」の声も大きく、広い園内に響いています。給食室に戻って来た食器は空っぽ。「明日も美味しいのを作るから待っててね！」と給食スタッフの士気も上がります。



### 5歳ナノ組さん「お箸に挑戦中！」

アルテでは、9月より5歳ナノ組さんが「お箸」の使用を始めています。上手に使える子・試してはみるが諦める子・興味を示さない子・スプーンやフォークの方が楽でも頑張って使ってみる子、と反応は十人十色。“一人ひとりのやりたい気持ち”に寄り添いながら正しく持てるように取り組んでいます。ご家庭でもあせらずゆっくりお箸の練習をしましょう。

### 七五三のお祝い

11月15日の七五三は、子どもの健やかな成長を祝う行事です。男の子は5歳（3歳で祝うことも）女の子は3歳と7歳でお祝いをします。昔は乳幼児の死亡率が高く子どもの成長が現在以上に貴重で、喜ばしいことでした。アルテでは、「ハレの日」のお献立として、11月15日（月）に「ちらし寿司」を予定しています。



**今が旬！**このコーナーでは旬の食材を紹介していきます。

～私は、大根さん～

私は季節に関係なく流通していますが、寒くなるこれからが美味しくなる季節です。栄養的に優れた野菜で、ビタミンCやカリウム、ジアスターゼと言う消化を助け胃腸の働きを整える成分が含まれています。「根」よりも「葉」は栄養価が高く、カロテン・ビタミンC・食物繊維などが豊富。「アルテの畑」でも栽培中です。収穫の日を楽しみに待っています。

私を選ぶポイントは、全体的にツヤがあって、まっすぐ伸びて太いものがお勧めです。持ったときに、ずっしりと重たいのはみずみずしい証拠。サラダ、煮物、漬物、干し大根……と色々なお料理が出来る万能野菜です。



# 11 がつのはげんだより

朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。厚着をさせすぎていませんか？子どもたちは外遊びが大好きです。薄手の重ね着で動きやすく、寒さは上着で調節するなど「活発に遊べる」という点で服装を考えましょう。緊急事態宣言が解除されましたが、引き続き、感染予防にご協力をお願いします。マスクには記名をし、予備のマスクを準備してください。

## 今日は何の日！？

### 11月8日は「いい歯の日」

歯みがきを苦手とするお子さまは、おうちで歯みがきカレンダーを作り、歯みがきができたからカレンダーにシールを貼ったり、スタンプを押すなどして、歯みがきに興味を持たせることから始めてみましょう。

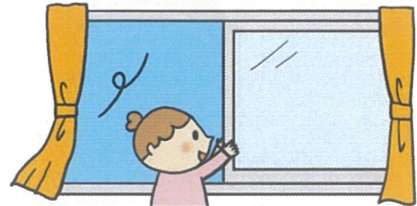
**11/11(木)は歯科検診があります。歯みがきをして登園しましょう。**



自分でみがける子でも、最後は仕上げみがきをしてあげましょう。

### 11月9日は「換気の日」

「いい空気」と読ませることから換気の日と言われています。空気(風)の通り道をつくり、1時間に1回、5分程度の換気を心掛けましょう。



### 11月12日は「皮膚の日」

空気の乾くこの時期は皮膚がカサカサになったり、かゆくなったりと乾燥肌が気になります。タオルでゴシゴシこすらず、お風呂上りには保湿クリームを塗りましょう。痒みは日常生活に影響します。早めに対応しましょう。



## インフルエンザ 予防接種について



風邪の予防はうがいと手洗いです。習慣づけましょう。

発症を抑え、肺炎や脳炎などの合併症を防ぐ重症化防止効果があります。ワクチンは効果を発揮するまでに約2週間かかり、半年程度効果を期待できます。

## 11月の予定

発育測定 11/9(火)

歯科検診 11/11(木)

0歳児健診 11/4(木)

11/18(木)

## #ユナタン⑤

2021年11月 片山 喜章

### 「お当番のルール」と「わがまま」と「寛容」

ある園の3歳児クラスの生活グループは、5人1組の固定メンバーです。毎日まいにち、1つのグループから1人ずつお当番が選出されて（5回に1度まわってくる）、給食・おやつ準備を担います。日めくりの当番表があり、朝の集いの時にめくると「今日のお当番」の子どもの名前が出てきます。お当番は誰もがやりたい活動です。5歳児なら輪番制のルールが理解できるので、トラブルはおきません。しかし、3歳児の場合、当番表に自分の名前が出てこないと泣いて悔しがる子もいて、その都度、話し合ってきました。

ふつうに考えると順番というルールがあるので、「それに従わないのはダメ」という正論でその子の「したい」という申し出は却下されるでしょう。しかし、この園には、子どものわがままともとれる主張を一蹴しないで、グループの子どもたちに投げかけて対話するという、伝統的な風土があります。

ある日、サンズは、前日にお当番をして楽しかったので「今日もしたい」と訴えました。当然、当番表には違う子の名前がありました。サンズはひどく泣きましたが、「お当番ちゃうやろ!」「昨日したばかりや!」とマルテやロハスから厳しい口調でなじられました。

一方、テルは「サンズ、お当番したいんやな?」としっかりとした口調で彼の気持ちに共感していました。結局、彼のわがままでは通りませんでした。それでも花子先生はサンズに「お当番できなくてもいいのね。納得したのね」と念押ししました。ルール違反、即、却下ではなくて、当事者同士で対話を重ねるうちにサンズを慰めたり、励ましたりする言葉が、グループの仲間たちから出てきたという場面もありました。3歳児らしさと言えるかもしれません。

それから半年後のある日、なぜか、サンズはお当番でもないのに「自分がしたい」と泣きながら花子先生に申し出ました。花子先生は“ああ、またか〜”と思いつつ、「自分でみんなに言ってごらん」と促しました。サンズは語気を強めて「お当番がしたい!」と泣きながらグループのみんなにお願いするように言いました。この時もマルテは「お当番とちがうやろ〜」と返しましたが、小声でした。以前に比べて明らかにグループの雰囲気は違いました。『ルールを守ろう、わがままするな』というような硬い空気はなく、グループのメンバーは困った様子でした（大人社会では、絶対、ありえないことです）。

その日のお当番はロハスでした。ロハスはあれこれ考えたあげく「サンズ、ほんまにお当番したい？」と尋ねました。サンズがうなずくと、「じゃ～2人でいっしょにする？」とサンズを誘いました。サンズは、満面の笑みをたたえて「やったー！」と飛び跳ねました。テルは“やったー”とちがうやろー。“ありがとう”やろー」とサンズを戒めました。

花子先生は、にわかに信じがたく、ロハスに「ほんとうにサンズといっしょにするのでいいの？」と確認を取りました。サンズは機嫌よく快諾しました。

すると、テルが「そやけどエプロン1つしかないで」と、お当番活動の必須アイテムであるエプロンがグループに1枚しかないことに気づきました。対話が振り出しに戻りそうな空気が流れました。花子先生は本当に困惑して、グループのみんなに再び「どうする？」と尋ねてみました。そこに「ジャンケンしたら～？」の声。サンズは「負けたらできひんやん」と泣き出しそうになりました。マルテは「話をして決めたらいいやん」と言い、5人の仲間たちは保育室の隅っこの方に行って、自分たちだけでこそこそと話し込みだしました。花子先生は、どんな結果になるか予想もつかず、ただただ距離をおいて見守るしかありませんでした。

しばらくして彼らは戻ってきました。結論は、『給食は、当番ではないサンズがエプロンをして行なう。ただし、おやつは、本来お当番だったマルテがする』ということでした。花子先生はマルテに「ほんとうにそれでいいの？」と尋ねましたが、「うん、いいよー。おやつの時、エプロンできるもん」と答えました。一体全体、どんなやりとりがあったのか、それは謎です。

3歳児の子どもたちの誰もがやりたがるお当番活動。そこで不公平にならないよう、輪番になるよう、日めくりの当番表を設けました。いわゆるルール作りをしました。半年前は「ルールだから」ということで、サンズのががママを仲間たちは許しませんでした。しかし、今回、サンズの気持ちを理解したうえでの対話がなされ、彼のががママを認める結論を、まさに子どもたちだけで出し、全員納得に至りました。3歳児とは思えないようなやりとりです。

もしかすると、グループの仲間のお椀やコップを配膳するといった本来のお当番活動以上に、エプロンを身に着けることに“憧れ”を感じていたのかもしれませんが。5歳児ならお当番活動は役割として使命感をもって行ないますが、3歳児にとっては少し事情が異なるようです。サンズのお当番をしたいと必死の訴えを「わがママだ」「ルール違反だ」と感じる感性よりも、「涙を流して訴える姿を何とかしてあげなきゃ」という仲間意識の方が勝ったのかもしれませんが(3歳児の彼ら自身が本来、わがママです)。

みなさんはこのエピソード、どのように思いますか。

